

令和5年度 地域人材・資源活用推進事業 報告書

【内容】

- 1 事業について
- 2 掲載資料について
- 3 それぞれの推進校の取組について

令和6年2月27日
東京都教育庁指導部指導企画課

令和5年度 地域人材・資源活用推進事業 報告書

1 事業について

(1) 事業の目的

これからの時代に求められる資質・能力を育むために、外部人材・地域資源を有効に活用しながら、社会や地域と連携して学校教育取り組む「地域人材・資源活用推進校」を指定し、取組を普及・啓発することを目的とします。

(2) 指定校数

17校（区市町村立学校15校及び都立特別支援学校2校）

(3) 指定期間

1年間（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

1 事業について

(4) 取組内容

推進校は、外部人材・地域資源を活用しながら、持続可能な社会の創り手となる資質・能力を育むため、複数の教科等を関連付け、以下の取組を行います。

- ア 教科等横断的な視点によるカリキュラム・マネジメント
- イ 多様な教育課題への取組
- ウ 授業改善の取組

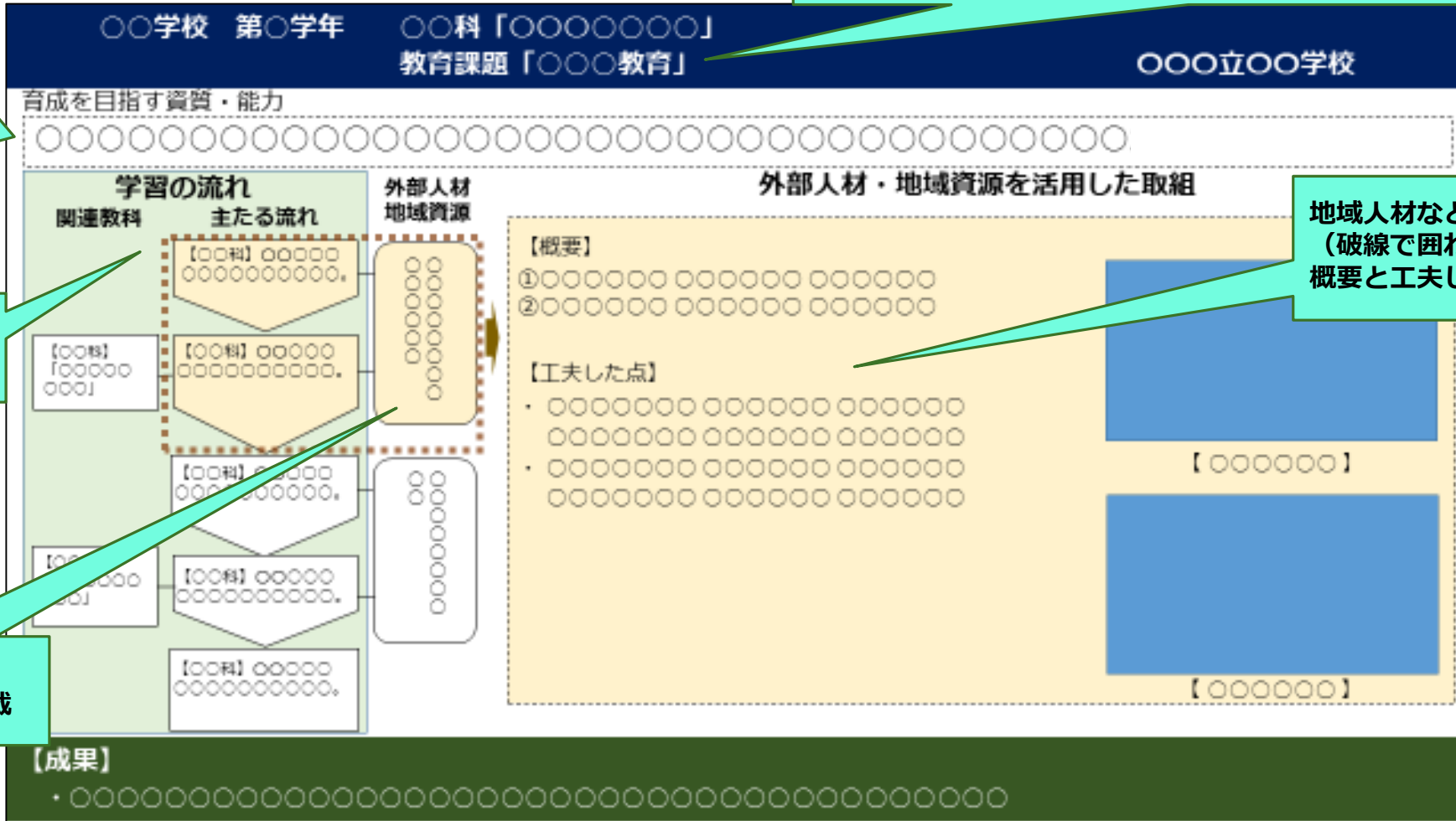
2 掲載資料について

学習指導要領に示されている「現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容※」を参考に、各校の実態に合わせて取り組んだ教育課題について記載
※小（中）学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編 付録6

地域人材などを活用した取組を通じて育成を目指す資質・能力を記載

全体の学習の流れと関連する教科等について記載

活用した外部人材や地域資源について記載



地域人材などを活用した取組（破線で囲われた部分）の概要と工夫した点を記載

令和5年度 地域人材・資源活用推進事業 報告書

3 それぞれの推進校の取組について

	学校名	教科等「単元名」	学年	ページ
1	港区立芝浜小学校	総合的な学習の時間「芝浜古本リユース活動～地球環境を守るために～」	6	6
2	文京区立本郷小学校	音楽科「日本や世界の音楽に親しもう」	6	7
3	大田区立入新井第一小学校	総合的な学習の時間「SDGsから考えるWell-being」	5	8
4	杉並区立杉並第七小学校	総合的な学習の時間「みんなつながるやさしい町・阿佐ヶ谷」	4	9
5	豊島区立南池袋小学校	生活科「きせつとあそぼうーあき」など5事例	1～6	10～15
6	葛飾区立東金町小学校	生活科「乳についてしらべよう」	2	16
7	八王子市立七国小学校	総合的な学習の時間「湯殿川ガサガサ探検隊」	4	17
8	町田市立木曽境川小学校	総合的な学習の時間「身近な環境を知ろう・守ろう『境川』」	4	18
9	大島町立さくら小学校	総合的な学習の時間「伝統 ～大島の伝説を調べよう！～」	3	19～21
10	杉並区立松ノ木中学校	総合的な学習の時間「衣・食・緑における環境理解」	1	22
11	豊島区立千登世橋中学校	社会科「日本の姿」	1	23
12	青梅市立第六中学校	総合的な学習の時間・理科・道徳 「青梅学（ホタル保全活動）」など	1～3	24～27
13	東村山市立東村山第二中学校	総合的な学習の時間「一人1台端末の活用による政治参画に向けた授業実践」	全(特)	28
14	清瀬市立清瀬第五中学校	総合的な学習の時間「花のチカラ プロジェクト」	1	29
15	青ヶ島村立青ヶ島小学校・中学校	生活科「青ヶ島のすてきなところを見つけよう」など	小2・中2	30～31
16	都立文京盲学校	総合的な探究の時間「和綿を育てる・暮らしの中で楽しむ活動」	高等部	32
17	都立七生特別支援学校	作業学習「作業製品を地域の方に知ってもらおう」	高等部	33

育成を目指す資質・能力

探究活動を通して、仲間と協力して問題を解決するとともに、自己の在り方や生き方を見付けようとする態度

学習の流れ

関連教科

主たる流れ

【社会科】地域の企業が地球環境を守ることを意識して自動車づくりに取り組んできたことを知る。

【国語科】身の回りにある問題を取り上げ、それに対する解決方法を提案する文章を書く。

【国語科】「いちばんだいじなもの」

【総合】日々の生活を通して資源や環境を大切にするために、自分たちができることを出し合い、実現可能か検討する。

【総合】地域の企業が行う取組について知り、「リユース」について自分たちの生活と関連付けて考え、リユースに取り組むための計画を立てる。

【社会科】「世界の未来と日本の役割」

【総合】芝浜古本リユース活動を実施し、店舗体験を通して学んだことを発表を行う。

外部人材
地域資源

地域の企業の職員から左記の協力を得る。
・地球の環境を守るために行っている取組について紹介
・「芝浜古本リユース活動」の実施に向けて助言

外部人材・地域資源を活用した取組

【概要】

- ①国語科の「私たちにできること」で、日々の生活から身の回りにある問題を取り上げ、それに対する解決方法を提案する文章を書いて発表した。
- ②国語科で発表した提案文の中から実際に自分たちができる取組について考え、実現可能か検討し、本のリユース活動を行うことを決定した。
- ③地域の企業が、地球環境を守るために行っている取組を知り、芝浜古本リユース活動についてどのように進めたらよいか計画を考え、話し合う。
- ④実際に店舗体験を行い、思ったこと、考えたことなどをまとめ、発表する活動を通して循環型社会についての理解を深める。

【工夫した点】

- ・実際に行うという見通しをもたせることで、「芝浜小でどのように本をリユースするのか考えよう。」と児童が主体的に問いをもつことにつながった。
- ・地域の企業から助言をいただくなど連携を図ることで、よりよい解決の仕方について考えることができた。



【自分たちができる活動について検討】



【地域の企業の職員から、環境を守る取組について紹介】

【成果】

・外部人材を活用することで、主体的に問いをもち、解決しようとする態度の育成につなげることができた。

育成を目指す資質・能力

自国の伝統文化に親しみ理解する力、他国の文化を尊重し平和をつくろうとする力

学習の流れ

関連教科

主たる流れ

【5年総合】生け花教室
生け花を体験し、日本文化のよさに触れる。

【5年音楽科】日本の音楽
箏の演奏体験をし、日本の音楽に親しむ。

【学校行事】音楽会
宇宙をテーマにした合唱や合奏に取り組む。

【音楽科】邦楽鑑賞教室
邦楽鑑賞と和楽器演奏を体験する。

【音楽科】世界の音楽
世界の音楽に親しみ、そのよさに気付く。

【和太鼓クラブ】
「和太鼓で楽しもう」

【国語科】
「日本文化を発信しよう」

【社会科】
「町人の文化と新しい学問」

外部人材
地域資源

華道の講師による
生け花の歴史の講
演と体験

和楽器演奏団体に
よるワークショップ

外部人材・地域資源を活用した取組

【概要】

- ①音楽の「日本や世界の音楽に親しもう」で、和楽器演奏団体を招き、第4～6学年合同で邦楽（箏曲、箏と長唄、長唄）を鑑賞した。日常使用している楽器と和楽器の違いや歴史を学んだ。鑑賞後に6年生のみワークショップを行った。
- ②国語科で学んだ歌舞伎等の古典芸能と関連付けて、和楽器が演出において大きな役割を果たすことを理解し、日本文化に対する関心を高めた。

【工夫した点】

- ・邦楽鑑賞を3学年合同で実施することで、6年生は3度目の鑑賞となり、新たな視点で邦楽を捉えることができ、興味・関心を高めることにつながった。
- ・ワークショップは、三味線、箏、尺八、鼓等を多数用意し、それぞれの楽器に外部講師が付き、児童に体験指導を行った。短時間で、すべての楽器に触れることで、歴史とともに引き継がれてきた先人たちの努力を知ることができた。



【第4～6学年合同 邦楽鑑賞】

毎年聞く「春の海」も、今までとは違ってより落ち着いた日本らしさを感じた。（6年児童）



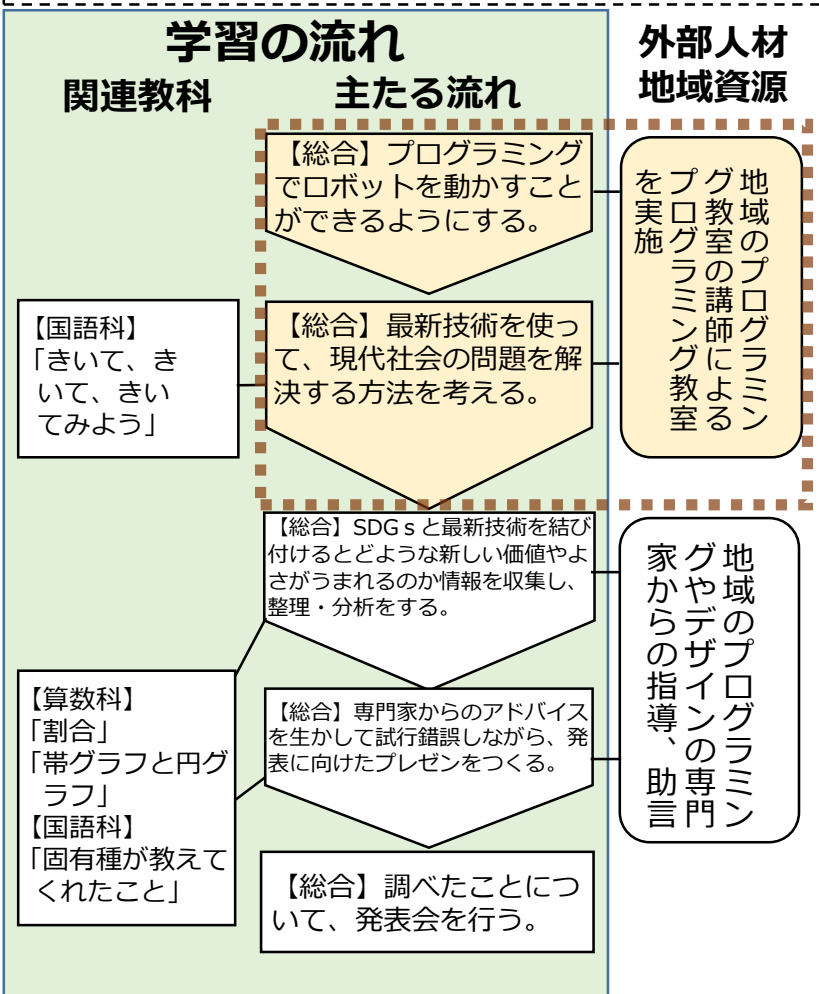
【第6学年和楽器ワークショップ】

【成果】

- ・鑑賞、体験を繰り返す経験を通して、日本文化を実感を伴って理解し、他国文化の長所に目を向ける素地を培えた。

育成を目指す資質・能力

SDGsから現代社会の問題について考え、主体的に課題を解決するために学習を調整する力



外部人材・地域資源を活用した取組

【概要】

- ①国語科「きいて、きいて、きいてみよう」で、聞き手に自分の意図を明確に伝えて尋ねる話し方の工夫について学び、デザインの専門家からキャラクターづくりやテーマに選んだ分野のことについて話を伺う。
- ②専門家と連携をしながら課題を解決するために試行錯誤し、その中で自分や他者のよさを生かしながら学習に取り組むことで、すすんで社会をよりよくしようと行動する態度を育成する。



【プログラミング教室】

【工夫した点】

- ・「課題の設定」「情報の収集・分析」「まとめ」それぞれの段階で、専門家と連携をすることで、児童の思考を深めたり、広げたりできるようにした。
- ・専門家に直接お話を聞く機会を設けることで、主体的に活動に取り組むことができるようにした。



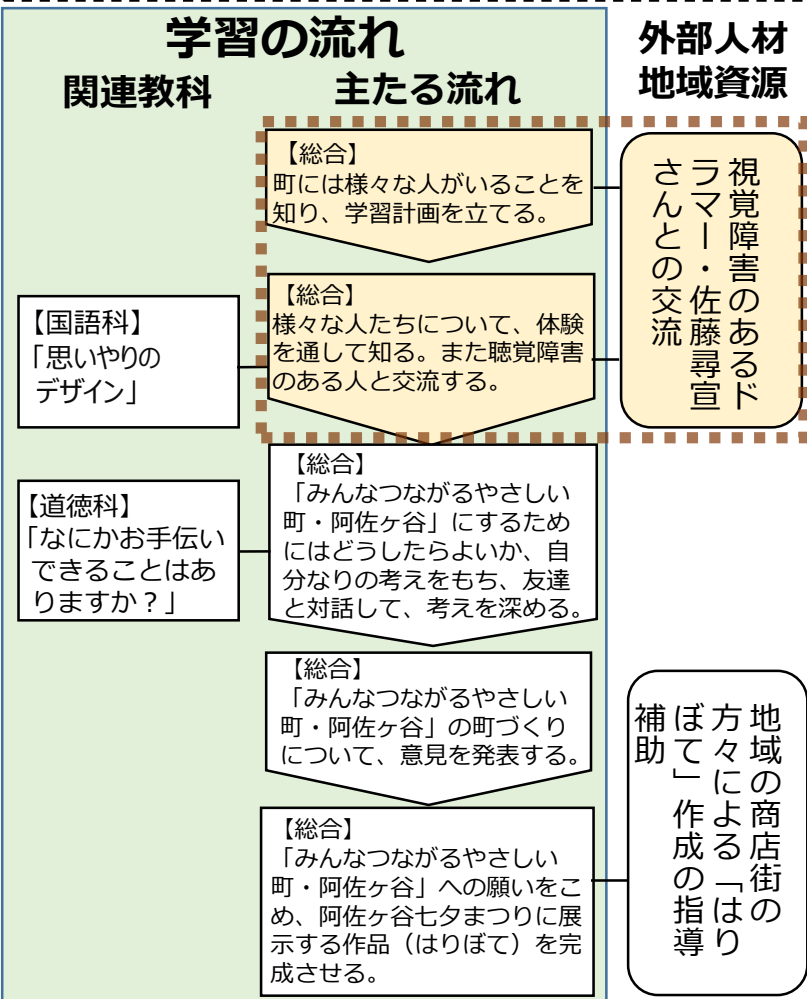
【デザインの専門家の方から発想のアドバイスをもらう】

【成果】

・児童が専門家の方からお話を直接伺うことで、自己の学習を調整しながら主体的に問題解決に取り組む力を高めることができた。

育成を目指す資質・能力

問いをもち、考えを深め、次の学びにつなげる力



外部人材・地域資源を活用した取組

【概要】

- ①区社会福祉協議会の協力で、様々な立場の人について体験を通して知る。
- ②視覚障害のあるドラマー・佐藤尋宣さんとの交流する。
- ③体験したことを生かして、自分にできることを考え、他学年の児童や保護者、地域の方々に発表する。
- ④自分の願いを込めた「はりぼて」を作成して、阿佐ヶ谷七夕まつりへ展示する。

【工夫した点】

- ・区社会福祉協議会の協力で、様々な立場の人について体験することができた。
- ・視覚障害のあるドラマー・佐藤尋宣さんの演奏を鑑賞したり、交流したりすることで、町づくりの理解がより深まった。
- ・はりぼてを作成する際には、地域の商店街の方々に中心に、地域のボランティアの方々に協力していただいた。



【視覚障害のあるドラマー・佐藤さんとの交流】



【保護者・地域の方々への発表会】

【成果】

- ・視覚障害のあるドラマー・佐藤さんと交流し、実際の様子や生の声を見聞きすることで、障害のある方をはじめ、全ての人にとってやさしい町づくりのより深い理解につながった。

育成を目指す資質・能力

身近な地域の公園を探検することを通じた自然に触れたり、季節の特徴に気付いたりする力

学習の流れ

関連教科

主たる流れ

外部人材
地域資源

【生活科】学校の校庭にある自然に触れる。季節の特徴に気付く。

【生活科】地域の公園へ行き、季節を感じる活動を行う。

【生活科】公園や秋の植物を振り返り、地域の造園業の方に手紙を書く。

【生活科】秋のものの特徴を生かして、みんなで遊ぶ。

【生活科】秋の特徴や遊びを振り返り、これからの季節について考える。

【国語科】「しらせたいな、見せたいな」

【図画工作科】「ならべてならべて」

ついでに、地域の造園業の方に教えてもらうことに

見つけたことを自分なりに表現したり、自分なりに気付か

外部人材・地域資源を活用した取組

【概要】

- ①地域の造園業の方をゲストティーチャーに招いた公園にある植物の学習
- ②南池袋公園の芝に触れ、秋という季節が夏と冬の間であり、経過の季節であることに気付く活動

【工夫した点】

- ①地域の造園業の方に教わったことを基に、一人一人の児童が自分自身の確かめたい疑問をもつよう指導した。
- ②公園マップを活用して、自由に探検する時間を確保した。異学年と一緒に探検するグループを編成して、自分たちの疑問の答えを見付けやすくした。



【公園のひみつを知ろう】



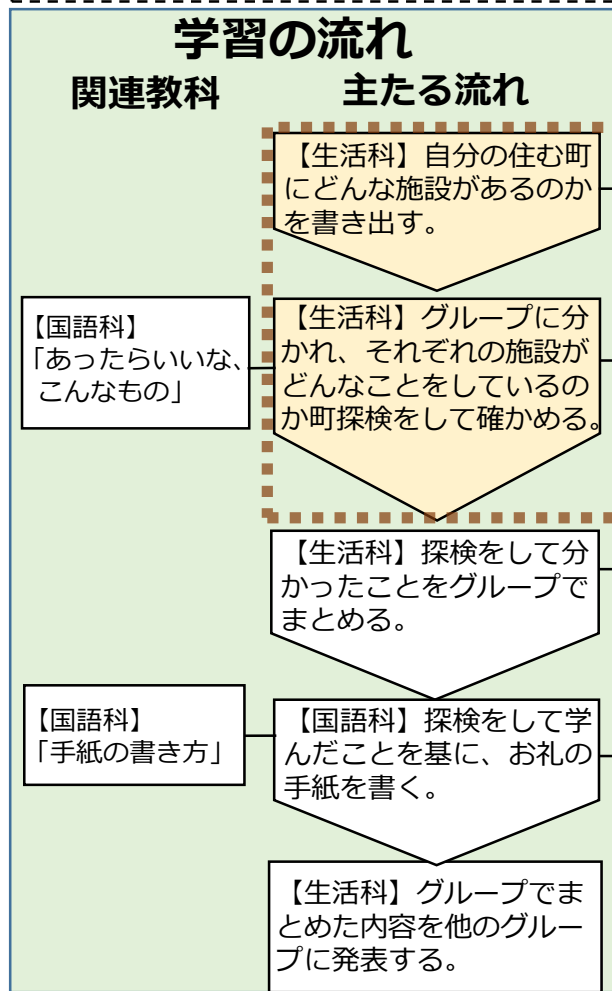
【グループで自然探し】

【成果】

・公園に関わる方のお話を聞き、地域の公園のよさや身近な自然の特徴や不思議さに気付くことができた。

育成を目指す資質・能力

自分たちの住む豊島区に親しみを持ち、自ら地域を知る力



外部人材 地域資源

地域の方々に協力を依頼して、仕事内容の話を聞いたり、インタビューをする

ご協力いただいた地域の皆さまへ、お礼の手紙を渡す

外部人材・地域資源を活用した取組

【概要】

- ①生活科「町たんけん2 -グループで出かけよう-」における、自分の通学路にはどのような施設があるのかを調べて発表する学習
- ②地域や施設の方々を訪問し、自分たちの疑問に思ったことをインタビューする活動

【工夫した点】

- ①日常生活の中での児童自身の気づきを大切にするとともに、国語科の指導と関連付けて、相手意識をもった発表を行うよう指導した。
- ②児童が様々な施設等に触れられるように、協力いただく施設等の業態が幅広くなるよう工夫した。



【地域の施設の方々との交流】



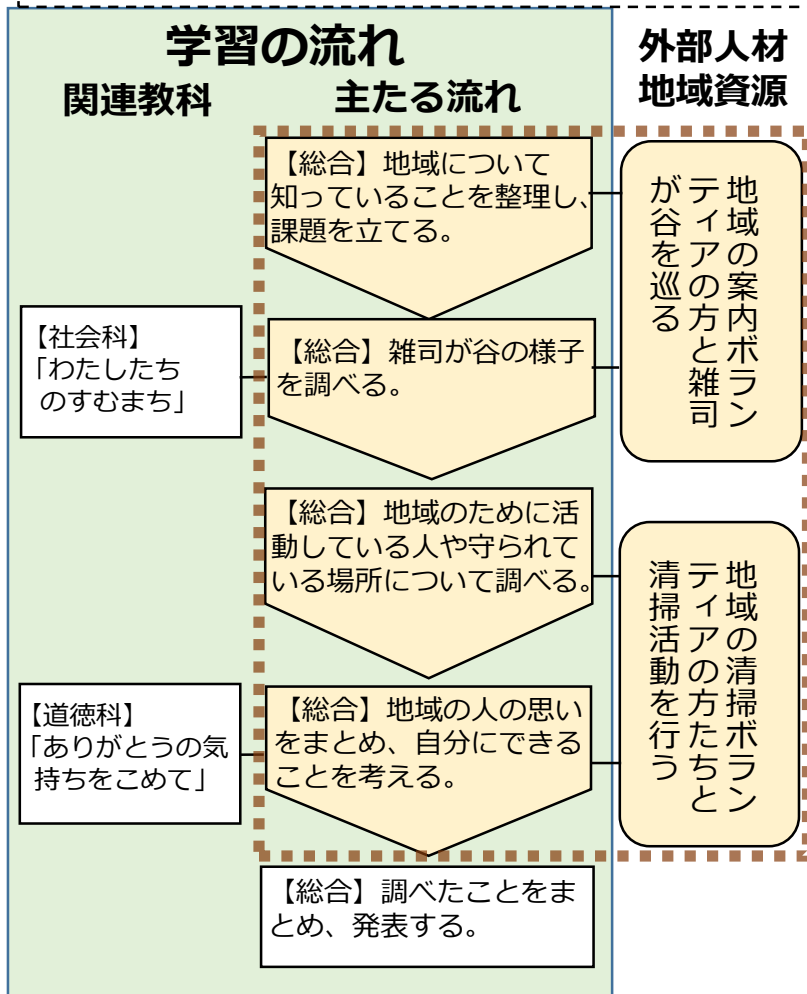
【グループワークで様々な施設へ】

【成果】

・施設で働く人々の話を聞くことで自分たちの住む町への理解を深め、様々な仕事や郷土に親しみをもつことができた。

育成を目指す資質・能力

自分たちが住んでいる地域の特徴や人々の思いを理解し、自分たちが住んでいる地域のよさを伝える力



外部人材・地域資源を活用した取組

【概要】

- ①地域の案内ボランティアの方が同行する雑司が谷巡り及び文化財や歴史についての学習
- ②地域の清掃ボランティアの方たちと共に行う落ち葉掃きの活動

【工夫した点】

- ①数多くある文化財の中から、児童が下調べをし、案内人の方には児童が興味・関心をもっている場所を中心に案内していただくよう工夫した。
- ②文化財や歴史だけでなく、地域で行う行事についてゲストティーチャーから教えていただくことで、自分たちも地域の一員であるという意識を高めるよう工夫した。



【ボランティアの方と雑司が谷巡り】



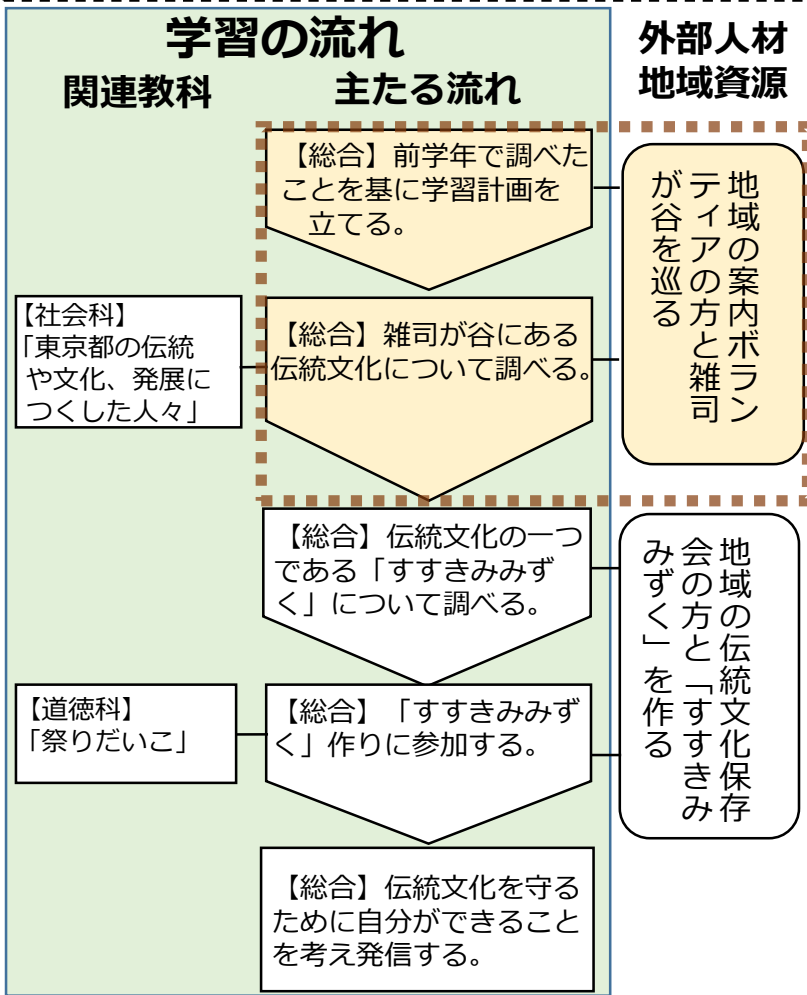
【ボランティアの方との清掃活動】

【成果】

・地域の人々から思いを聞く活動を通して、自分も地域の一員であることに気付き、積極的に関わろうとする心情が育ってきた。

育成を目指す資質・能力

地域の伝統文化を伝承しようとする人々の思いを知り、自分たちができることを考え発信していく力



外部人材・地域資源を活用した取組

【概要】

- ①地域の案内ボランティアの方が同行する雑司ヶ谷巡り及び文化財や歴史についての学習
- ②地域の伝統文化保存会の方たちと共に行う「すすきみみずく」作りの活動

【工夫した点】

- ①子どもの地域に対する理解を深めるために、雑司ヶ谷の文化財などから、児童が興味をもっていることや、調べていることを中心に案内をしていただいた。
- ②事前学習として「すすきみみずく」ができるまでのお話や作り方を動画で確認する等、児童が主体的に「すすきみみずく」作りに取り組めるよう工夫した。



【案内人の方と雑司ヶ谷めぐり】



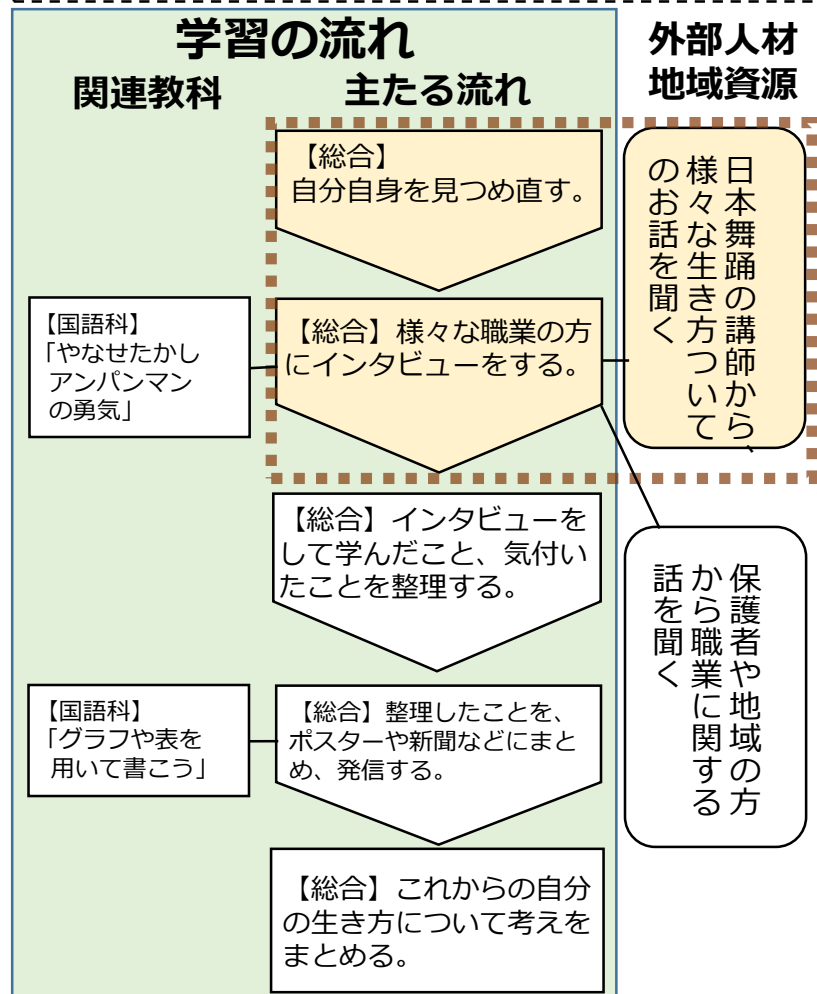
【すすきみみずく作り】

【成果】

・ 伝統文化を継承する地域の方の思いを知ること、自分たちが今からできることを考え発信しようとする気持ちが高まった。13

育成を目指す資質・能力

自らの可能性や色々なことに挑戦する気持ちを育み、将来を切り拓いていこうとする力



外部人材・地域資源を活用した取組

【概要】

- ①総合的な学習の時間における、様々な生き方を知り、自分自身を見つめ直す学習
- ②様々な職業の方にインタビューをし、学んだことを整理し、ポスターや新聞などにまとめ、発信する学習

【工夫した点】

- ①単元名や単元の計画を児童と共に考え、児童の思考に沿うように工夫した。
- ②インタビューをしたい職業を児童に選択させ、担任がねらいとしている部分とずれがないよう、定期的に学習の状況をを確認しながら指導した。



【日本舞踊の講師へのインタビュー】



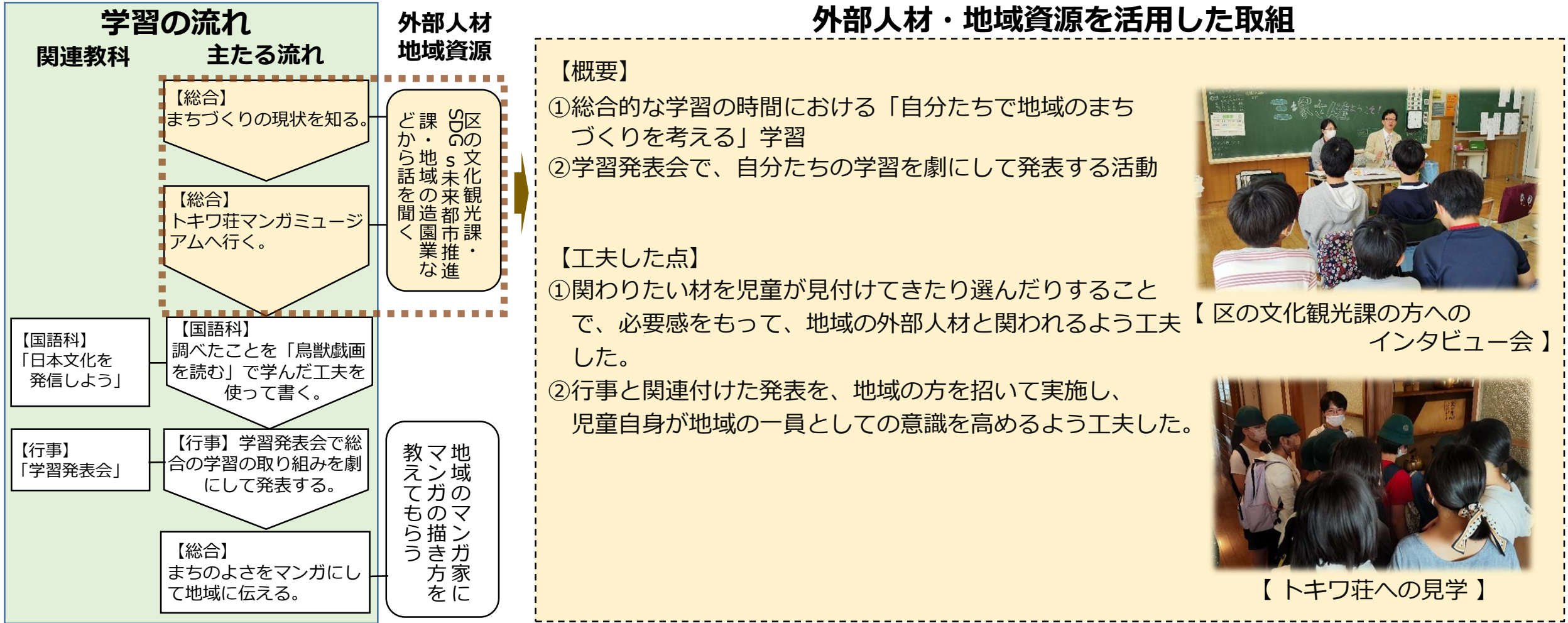
【日本舞踊の体験】

【成果】

・自分自身について見つめ直し、様々な方へインタビューを行ったことで、将来に向け希望をもって生活する気持ちが高まった。

育成を目指す資質・能力

地域のまちづくりに対する思いや、特色を理解し、地域の一員として行動できる力



【成果】

・ 様々な地域の材と関わることで豊島区のまちづくりの特色を知り、特色を生かしたまちづくりを地域に広めることができた。

育成を目指す資質・能力

自分で課題を設定し、調べたことをまとめて相手に伝える力

学習の流れ

関連教科

主たる流れ

外部人材
地域資源

【生活科】給食で飲んでいる牛乳、乳で育つ動物について知る。

【生活科】牛の乳の栄養や、加工された乳製品について知り、自分たちでバターを作る。

【国語科】哺乳類の動物について調べ、動物カードを作る。

【国語科】動物カードをもとにクイズを作る。

【国語科】クイズを1年生に出して、交流活動を行う。

【生活科】「乳について調べよう」

【国語科】「どうぶつカードをつくらう」

朗読グループによる絵本の読み聞かせ

連携しているNPO法人から提供された「理科読プログラム」を活用

外部人材・地域資源を活用した取組

【概要】

- ①生活科の学習では、食育をテーマにした学習を毎年行っている。給食やおやつなどをこれまで題材に扱ってきたが、今回は「牛乳」の残食率が年々増えている傾向があるので、乳について学習を行った。
- ②牛乳の栄養素、牛乳を加工した食品について学んだあと、実際にバターづくりを行った。
- ③牛だけでなく乳で育つ動物について調べ、1年生に分かったことを伝えるクイズ大会を行った。

【工夫した点】

- ・連携しているNPO法人から提供された「理科読プログラム」を活用し、児童の学習に対する関心を高めた。
- ・地域人材を活用して、地域で活動している読み聞かせグループの方から、絵本の読み聞かせをすることで、児童の学習への関心や意欲を高めた。
- ・調べたことをまとめて相手に伝える活動を行うために、目的（クイズを出す）・相手（下級生）意識をもたせて学習を進めた。



【絵本の読み聞かせを聞く】



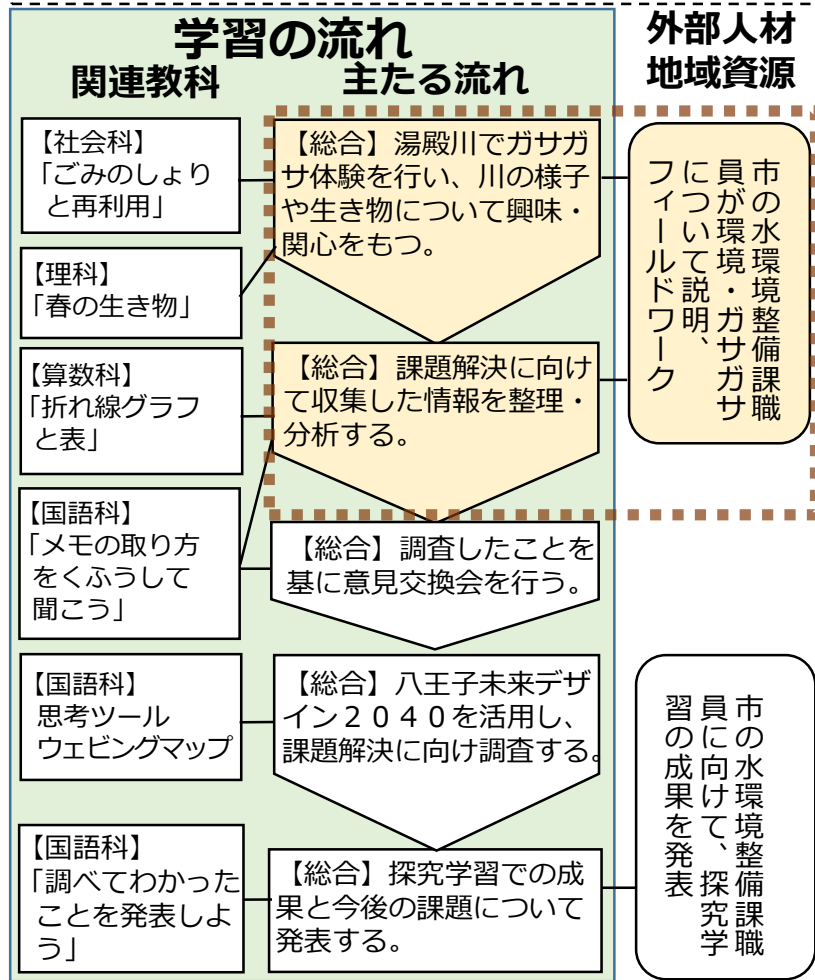
【調べてクイズを作成】

【成果】

・児童が調べたい課題（動物）について調べ学習を進め、調べたことをまとめて伝える力が高まった。

育成を目指す資質・能力

- 根拠をもって自分の考えを明確に表現し伝える力
- 自ら問をもち、課題を見付けようとする力
- 情報を比較・関連付けるなどして整理し活用する力
- 認め合い協働してよりよいものを求めていく力



外部人材・地域資源を活用した取組

【概要】

- ①社会科「ごみのしよりと再利用」や理科「春の生き物」で環境や生き物について学習した後に川の生き物や沈んでいる物を調べるガサガサ体験を設定したことで、他教科での学びを関連付けて環境について考え、個に応じた課題設定を行えるようにした。
- ②総合的な学習の時間（探究の時間）では、自然に直接関わる体験活動を設定し、市の水環境整備課職員から川的环境についての説明を受けてから身近な川のガサガサ体験を行い、環境問題や外来種が及ぼす生態系の変化などについて考えた。

【工夫した点】

- ・児童の学習状況に応じて、適切なタイミングで情報の整理・分析ができるように捕った生き物を学校の大型水槽で飼育し、学年問わず観察できる場を設けた。
- ・ガサガサ体験では、市の水環境整備課職員から一人一着のライフジャケットと魚とり網を用意していただき、安全に配慮した活動を実施した。
- ・河川財団による河川基金助成事業を受け、簡易テントを準備し、説明を受ける際や休憩の際の暑さ対策に活用した。



【水環境整備課職員による指導】



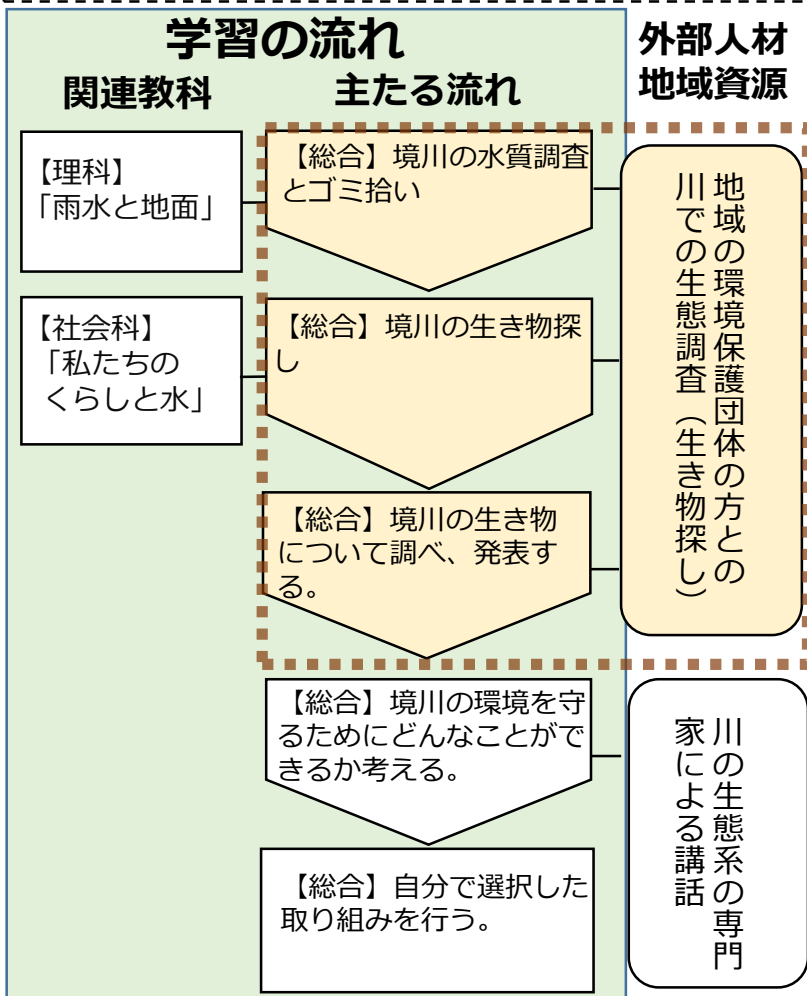
【湯殿川に入りガサガサ体験】

【成果】

- ・身近な川（湯殿川）について、直接関わる体験活動を外部人材を活用して行ったことで、児童は問題状況を適切に把握し、主体的に課題を設定することができた。

育成を目指す資質・能力

一人一人が主人公！主体的に学び、表現する力



外部人材・地域資源を活用した取組

【概要】

- ①地域の環境保護団体の方の話を聞き、社会科「私たちのくらしと水」の学習と関連付け、境川の水質や生態を調べる。
- ②地域の外部人材である川の生態系の専門家の方から話を聞く。自分の住む地域と関連付けながら、環境を守るために何ができるか考える。

【工夫した点】

- ・昔から今にかけての境川の環境の変化や、その時々に見られる動植物についての話をさせていただくために、地域に住む境川に詳しい方をゲストティーチャーに招いた。
- ・川の専門家から、川の汚れが海の汚染に関係していることを聞き、総合的な学習だけでなく社会科や理科で学習したことの理解も深めることができたようにした。
- ・できるだけ近くの地域に住む専門家から話を聞くことで地域との関わりを身近に感じられるようにし、主体的な学びが実現できるようにした。また、いろいろな環境保全活動の話を聞くことで、ポスターやゴミ拾いなど、目的に合わせて自分の考えを表現できるようにした。



【地域の環境保護団体の方と境川での生き物探しの様子】



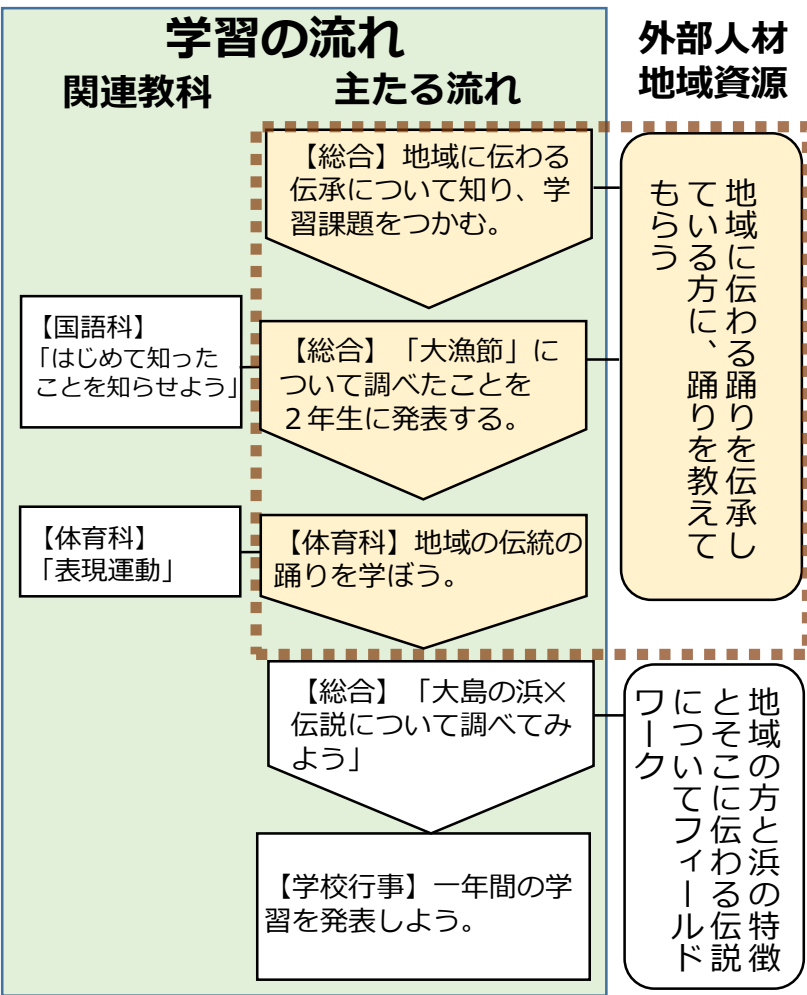
【川の生態系の専門家による講話の様子】

【成果】

- ・児童が身近な環境に興味をもち、自分からすすんで調べたり、問題解決のための行動をしたりすることができるようになり、主体性や表現する力が高まった。

育成を目指す資質・能力

地域の伝統から問いを見出し、その解決の手段を考え調査し、必要な情報から考え、根拠をもとに表現する力



外部人材・地域資源を活用した取組

【概要】

- ①地域の方に、地域に伝わる伝承・祭礼等について、教えていただき、地域の文化について学習課題をつかむ。
- ②地域に伝わる踊りについて、その意義と意味について理解する。
- ③実際に大漁節という踊りの動作を指導していただき、踊れるようにする。
- ④運動会で、地域・保護者に向けて発表する。

【工夫した点】

- ・地域に伝わる手踊り、大漁節の歌詞の言葉を調べる活動を通して、歌の内容をよく理解できるようにした。
- ・調べたことを2年生に向けて発表することで、より理解が深まるようにした。
- ・地域の方の大島への熱い思いに触れることで、郷土愛が深まった。



【地域に伝わる伝承を知ろう】



【大漁節を踊ろう】

【成果】

・自分の住んでいる地域について、伝承・伝説について調べ学ぶことによって、地域の魅力を再確認することができた。

育成を目指す資質・能力

地域の食のよさと課題及びそれに携わる人々の願いを知り、自分事として課題解決に取り組む力

学習の流れ

関連教科

主たる流れ

外部人材
地域資源

【総合】「わくわく発見！大島の食」ガイド
ンス

製塩所の経営者に
塩づくりの方法を教
え、実際に海水を汲
み取り、塩づくりを
体験する。

【社会科】
「これからの
食料生産」

【総合】「島の自然が
生む塩づくり」

【家庭科】
「食べて元気に」

【総合】「食べ物のあり
がたさ～大島町の給食か
ら考える～」

給食センターの栄養士さ
や食料を納入する農家
の方から話をうかがう

【総合】「大島の食材の
よさ見つけ隊」

【学校行事】一年間の学
習を発表しよう。

外部人材・地域資源を活用した取組

【概要】

- ①自然体験教室に合わせて、地域で製塩所を経営する方を講師に招き、塩づくりの方法を学ぶ。
- ②実際に海水を汲みに行き、自分たちが汲み取った海水を使って塩づくりを行う。
- ③自分たちの作った塩を使って、調理実習をする。



【塩づくり・ボーメ計で塩分濃度計測】

【工夫した点】

- ・身近な環境を生かして、塩づくりを行っている方の話を聞くことで、塩づくりの歴史について知り、身近な大島の海水から塩づくりをする行程を体感することができた。
- ・学んだことをまとめて伝える活動により、島の食材について、さらに興味をもつことができた。



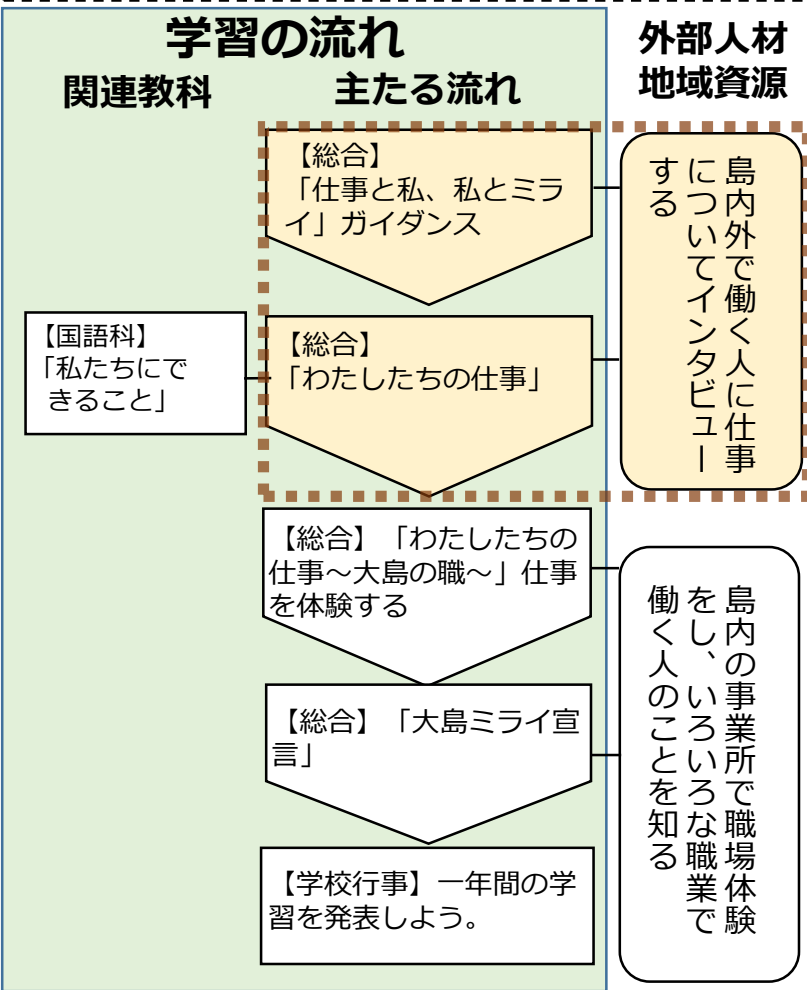
【おいしい塩ができました】

【成果】

- ・「大島の食材を使った料理を考えたい・作りたい」という意見を基に、島の食材を使ったオリジナル料理を考えて作る活動につなげることができた。

育成を目指す資質・能力

自分の将来に希望をもち、島の未来を考え、課題解決をめざす力



外部人材・地域資源を活用した取組

【概要】

- ①島内で仕事をしている方から、働くということをテーマに講演をしていただく。
- ②講演を聞いて、考えたことをより詳しく知るために、様々な職種の方にインタビューする計画を考える。
- ③考えた質問を基にインタビューをする。
- ④中間まとめを発表する。

【工夫した点】

- ・インタビューの際には、ブース形式にして、児童が順に回って話を聞くようにした。
- ・島内で開設されたサテライトオフィスでインタビューの会場として提供していただき、新しい仕事のイメージを体験できるようにした。
- ・島内で就ける仕事だけでなく、島外で、島とかかわりをもって就ける仕事があることに気付けるようにした。



【島内で仕事をされている方へインタビュー】



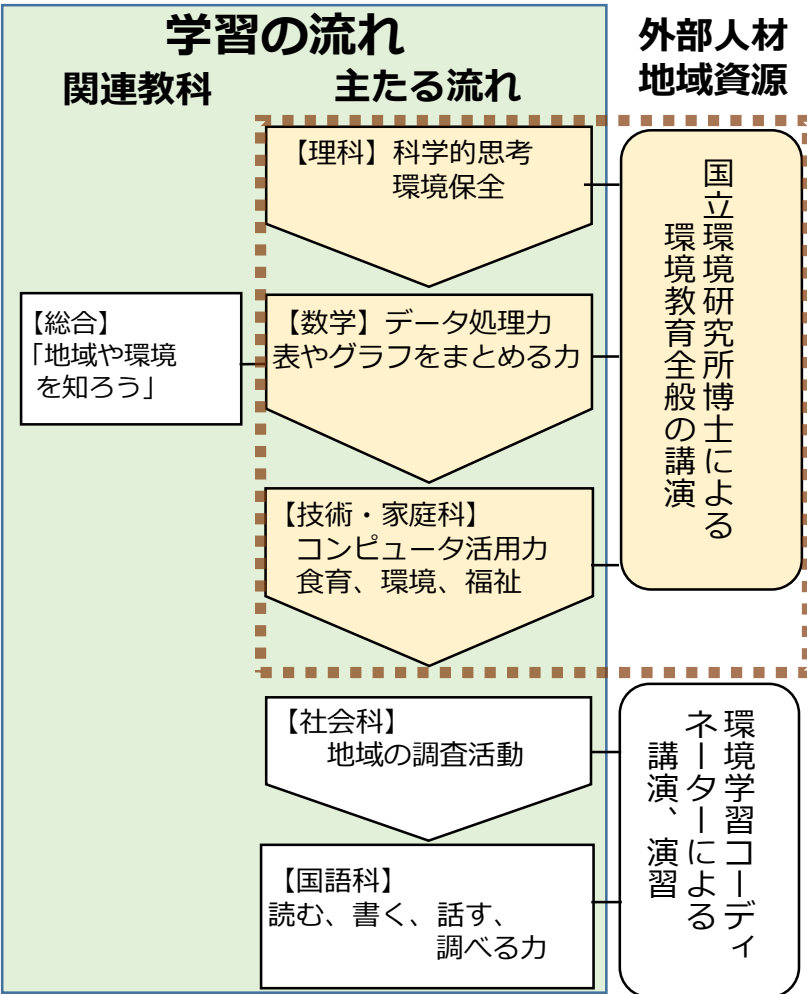
【サテライトオフィスでインタビュー】

【成果】

- ・島の大人たちとのつながりをもつことができ、将来、恩返しや貢献しようとする心根を育むことができた。

育成を目指す資質・能力

身近な地域環境の循環システムについて体験し、持続可能な環境維持を推進する心



外部人材・地域資源を活用した取組

【概要】

- ①総合の環境の中で、校外学習などフィールドワークを取り入れ、さらに複数教科での横断型学習を進めた。
- ②国立環境教育研究所の博士から環境全体の成り立ちを学び、環境学習コーディネーターから地域に密接した学習を進めた。

【工夫した点】

- ・ 学年を衣、食、緑の3つにグループ分けし、それぞれ調べる内容を絞り込み、グループ学習を行った。
- ・ 環境学習コーディネーターとして地域人材を活用したことで、身近な環境への取組などに関する質問への即時対応を可能とした。
- ・ 2万7千余㎡の東京都管理の公園が隣接していることを生かし、四季を通じた実地調査を行った。地域密着型の環境学習コーディネーターを活用し、行き届いた支援が行えるようにした。



【博士による講演会】



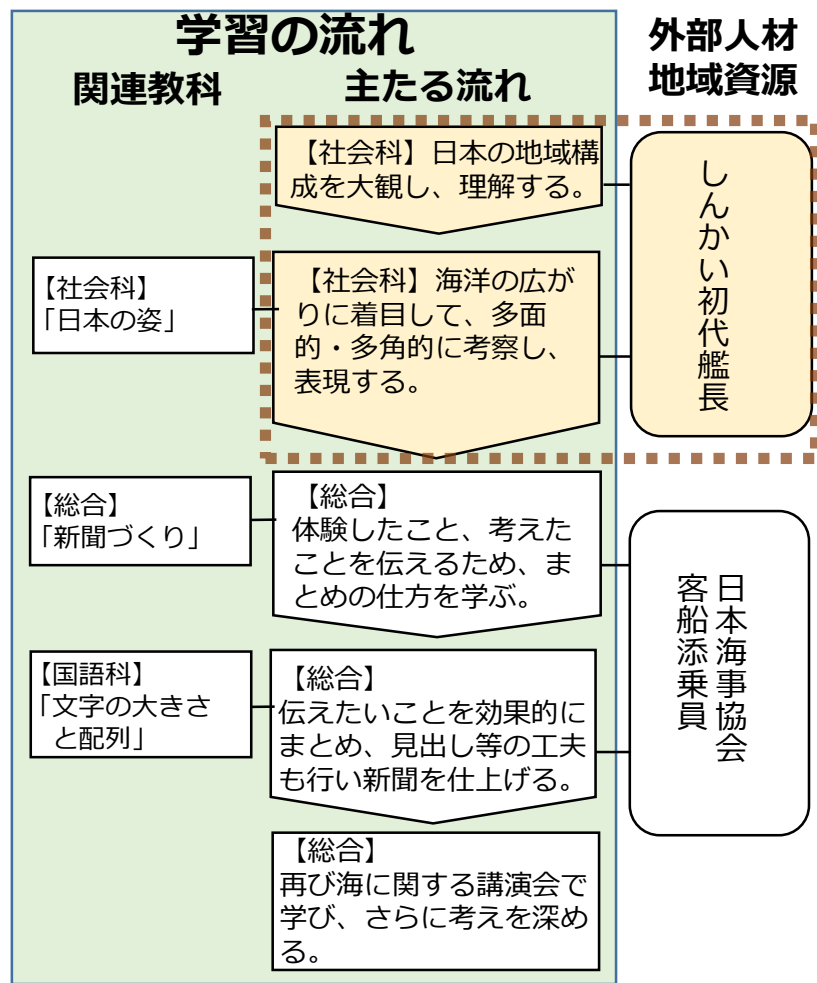
【グループワークの様子】

【成果】

- ・ 地球温暖化は身近な公園緑地にも及んでいて、自己の取組が緑地維持の一助となることが理解できた。

育成を目指す資質・能力

海運について学び、語るための表現力を磨く



外部人材・地域資源を活用した取組

【概要】

- ①新聞や情報の受け止め方を学び、取材する立場として横浜を訪れる。
- ②「海洋についての講演Ⅱ」にて自己の課題について更に学びを深める。

【工夫した点】

- ・身近にない環境をテーマにすることで興味や関心をもてるようにした。
 - ・第2・3学年の希望者を対象に「海洋に関する講演会」を行う。
- 昨年度と一昨年度の「講演→移動教室→事後学習」を踏まえ、より広い視野、深い考え、探究心をもって臨めるようにし、海洋についての学習の継続性を図った。



【帆船日本丸を見学】



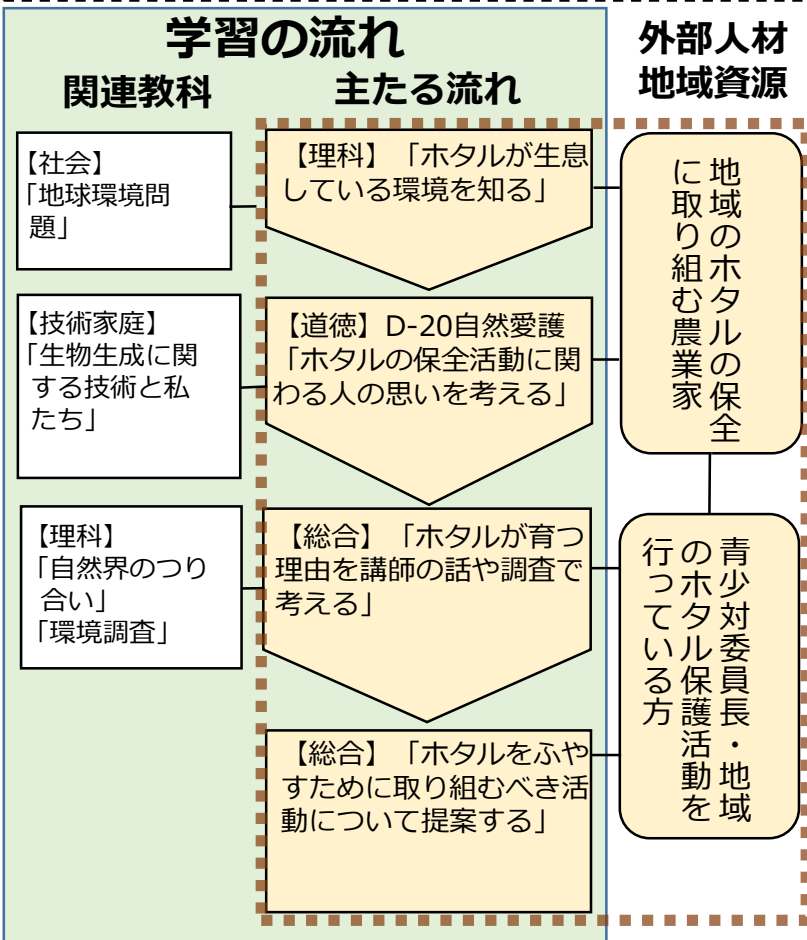
【「深海をみつめて」講演】

【成果】

- ・第一学年からの一連の学びを通して、深海に関する興味は一層深まり、主体的に講演会に臨むことができた。
- ・学んだことや考えたこと等を言葉を通して表現する力（紙面及び口頭）が向上した。

育成を目指す資質・能力

ホタルが育つ地域環境に学び、郷土の自然保護の担い手となる力 課題解決力



外部人材・地域資源を活用した取組

【概要】

- ①第1時 理科 ホタルの生息となるカワニナの生態を現地に赴いて確認する。（地域の農業家を訪問）
- ②第2時 道徳 ホタルの保護活動に関わる地域の方の話を聞いて、その思いを考える。
- ③第3時 総合 ホタルが好む水質を知るために水質の検査を行い、結果からホタルが地域でふえた理由を考察する。（現地で取水、理科室で検査）
- ④第4時 総合 ホタルをふやしていくためにはどうしたらよいか考え、大人に提案する。

【工夫した点】

- ・フィールドワークと水質検査を取り入れ、ホタルが育つ環境を体験的に学び考えることができるようにした。
- ・地域の方のホタルに対する思いを生徒に伝えられるようにした。
- ・ホタルとカワニナ、カワニナと餌の関係から、「自分たちが地域環境にできることは何か」について考えられるようにした。



【カワニナの生態調査】



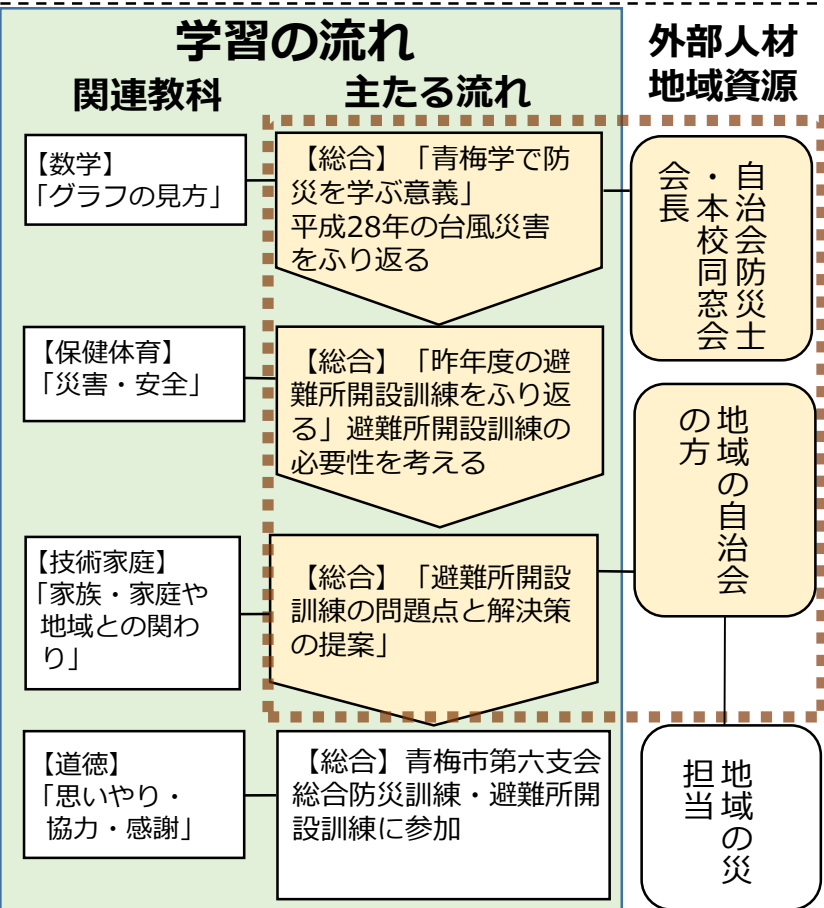
【水質検査の結果】

【成果】

・地域のホタル保護活動『ホタルをふやしたい』の取組について理解し、地域の環境保護のためにできることを考えたことで、『ホタル出現マップ』などの環境調査の取組に生徒が積極的に参加するようになった。

育成を目指す資質・能力

避難所開設訓練の防災活動を通して自助・共助の在り方について考え、地域防災の担い手になる力



外部人材・地域資源を活用した取組

【概要】

- ①第1時 総合
 - * 地域で起こった台風災害（H29）について、自治会の防災士の説明を聞き、地域防災の課題を確認する。
 - * 昨年度の避難所開設訓練の映像と昨年の反省から、訓練に中学生の力が必要であることを理解する。
- ②第2時 総合 地域住民に配慮した優しい訓練になるよう、問題点と解決策を模索する。
- ③第3時 総合 避難所開設訓練の実施 第2学年は受付や避難住民の校舎案内、準備や片付けを担当する。

【工夫した点】

- ・自治会防災士、地域の自治会の方、地域の防災担当をゲストティーチャーに迎えた。
- ・青梅市防災マップ、昨年度の地域のCATV映像を活用した。
- ・解決策を提案して、避難所開設訓練当日に生かした。
例：配布する飲料を1種類にする。授乳スペースをつくる。
受付の工夫⇒二次元コードを利用する。



【ゲストティーチャーによる
防災に関するお話】



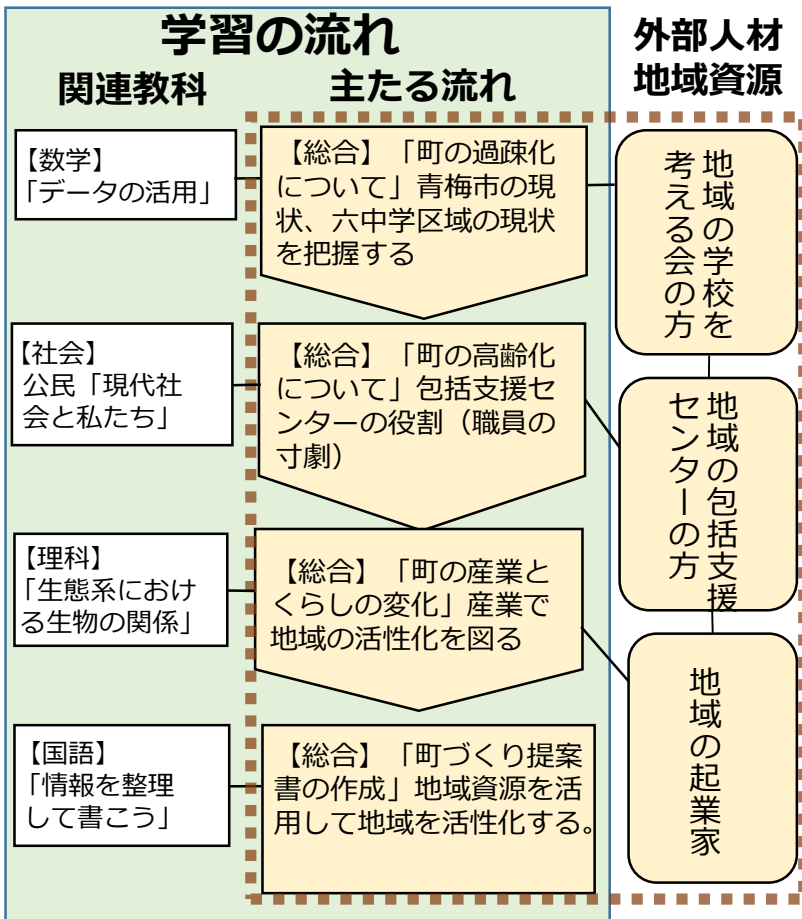
【避難所開設訓練当日のようす】

【成果】

- ・地域防災を学ぶ意義を理解し、地域住民に配慮した訓練を実施するにはどうしたらよいか、自ら考えることができた。
- ・避難所開設訓練の流れを理解し、地域の方のために積極的に協働しようという意識が芽生えた。
- ・避難所開設訓練の振り返りでは「昨年度よりも積極的に活動することができた。」と多数の生徒が回答した。

育成を目指す資質・能力

少子高齢化や過疎等の地域の課題について考え、将来の町づくりの担い手となる力



外部人材・地域資源を活用した取組

【概要】

①第1時 総合

- * 青梅市の過疎化や空き家問題、特に第六中学校地域の現状について、提示された資料を基に問題を把握する。
- * 地域の高齢化について、地域の包括支援センターの職員による高齢者生活についてのロールプレイを見て考える。
- * 地域の起業家の地域循環型農業についての説明を聞き、これからの地域産業について考える。

②第2時 総合 過疎化・高齢化・産業について、班に分かれ町づくり提案書を作成し、発表する。

【工夫した点】

- ・自治体の統計資料に基づき、現状を把握できるようにした。
- ・包括支援センターの職員がロールプレイを行い、高齢者の実際の生活について、具体的に考えられるようにした。
- ・地域で新しい産業を支援している起業家を講師とした。
- ・思考ツール「課題解決ボックス」で生徒の考えを整理した。
- ・「地域のひと、もの、ことに関わる」視点を提示した。
- ・班活動で生徒の考えを広め、提案書にまとめられるようにした。



【高齢者の生活についてのロールプレイ】



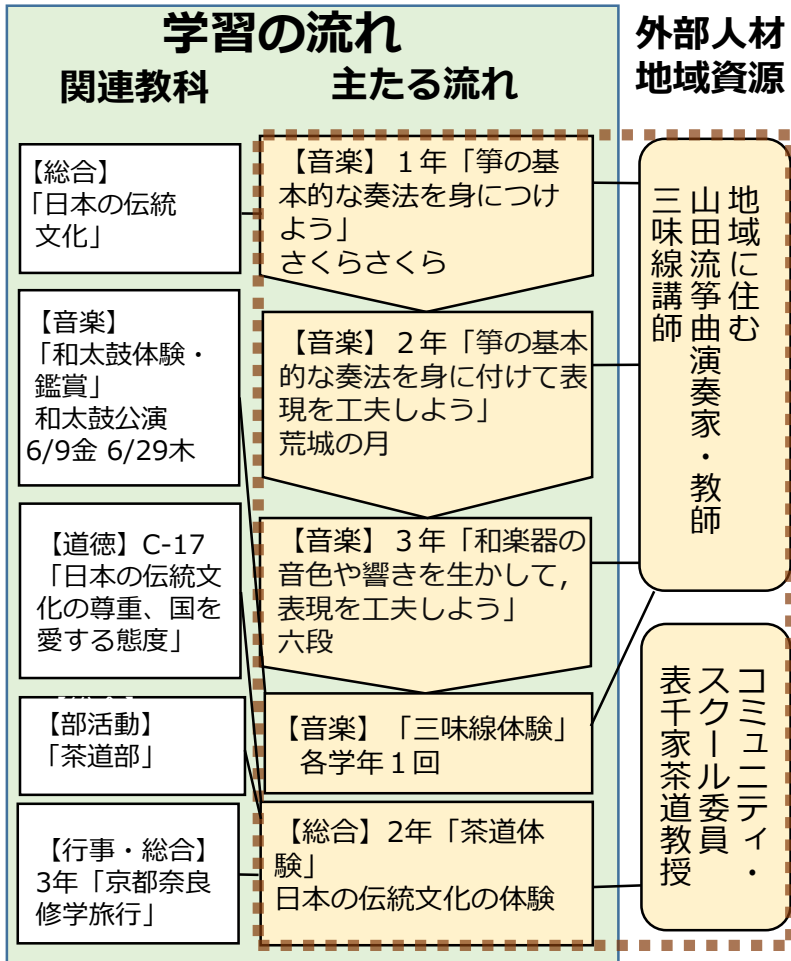
【提案書の発表】

【成果】

- ・専門家の助言をもとに、『公園にキャンプ施設をつくる』など意見が出るなどの地域の活性化の取組を生徒が具体的に提案書にまとめることができた。

育成を目指す資質・能力

茶道体験・和楽器の授業を通して伝統文化について理解を深め、地域文化の担い手となる力



外部人材・地域資源を活用した取組

【概要】

- ①音楽「箏の授業」（各学年3回）青梅市在住の箏曲演奏家を招き、各学年の目標に合った曲を演奏できるようにする。
- ②音楽「三味線体験」（各学年1回）箏奏者を三味線講師として招き、三味線を体験する。
- ③総合「茶道体験」（第2学年）茶道教授を招き茶道を体験する。第3学年で実施する京都奈良の修学旅行につなげる。

【工夫した点】

- ・近隣の中学校と協力し、箏を生徒一人1張（はり）準備した。
- ・部屋に箏を出したままにできるように、授業を調整した。
- ・近隣の中学校と協力し、三味線を一人1棹（さお）準備した。
- ・茶道体験の茶道教授は、コミュニティ・スクール委員に依頼した。
- ・お菓子は、職業講話や職場体験でお世話になっている青梅市内の和菓子屋に依頼した。



【箏の授業】



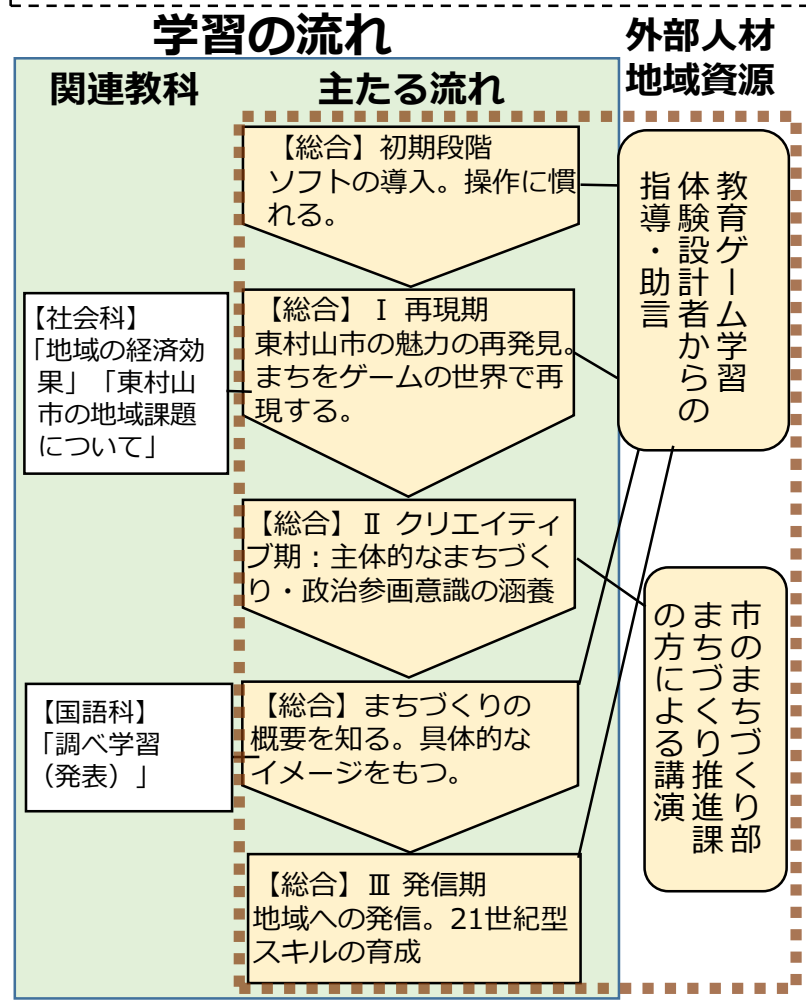
【茶道体験】

【成果】

- ・講師から日本の伝統文化の良さを学びつつ、意欲的に箏の演奏に取り組むことができた。
- ・茶道体験でお茶と和菓子をいただくことで、日本のもてなしの心を学び、青梅の歴史と文化に気付くことができた。

育成を目指す資質・能力

- ①地域理解 ②課題設定能力 ③解決策を見つけ出す力 ④発信力・政治参画意識の涵養 ⑤コミュニケーション能力



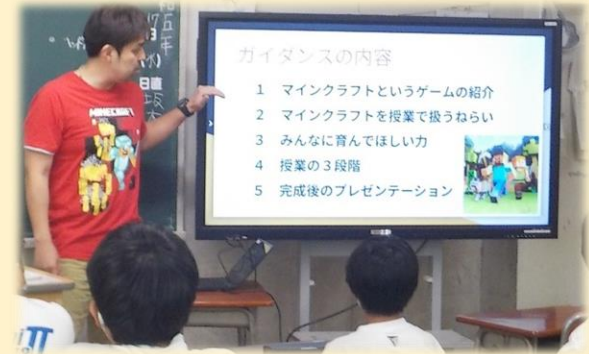
外部人材・地域資源を活用した取組

【概要】

- ①ゲーム型アプリ（建築や仲間づくりを行うタイプ）を活用し、未来の東村山駅を創造した。通年で実施し、指導を3段階（Ⅰ再現期・Ⅱクリエイティブ期・Ⅲ発信期）に分け、指導・助言をいただきながら授業実践を行う。
- ②市のまちづくり部まちづくり推進課の方による講演を聞き、暮らしやすい東村山市についてグループごとにアイデアを出し、ゲームの世界で具現化する。

【工夫した点】

- ・遠隔から生徒の様子を確認し、各グループに向けた指導・助言をしていただくために、ウェブ会議アプリの機能を毎授業で活用した。※ソフトの導入、操作方法については、外部人材から直接指導を受けた。
- ・実際に東村山市のまちづくりを担当しているまちづくり部まちづくり推進課の方に、クリエイティブ期に入る前に、東村山駅周辺のまちづくりについてスライドを用いた講演を受けた。



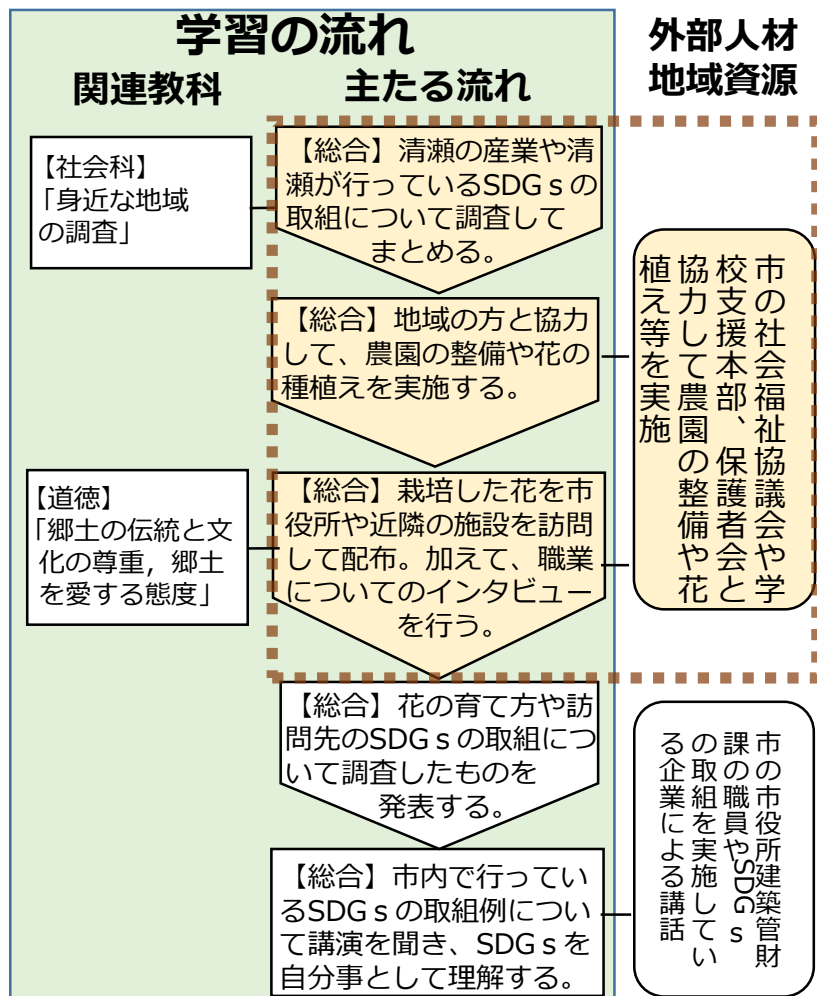
【地域人材による授業の様子】



【市のまちづくり推進課の方による講演】

育成を目指す資質・能力

体験学習（SDG s の視点）における物事を考えられる力や、地域・郷土を愛する力の育成



外部人材・地域資源を活用した取組

【概要】

- ①社会科の「身近な地域の調査」の一環として、市内の産業や市内で行われているSDG s の取組について調べ学習を行う。
- ②地域の方々と協力して、校内の農園を整備したり花の苗を植えたりする活動を通して、地域との結びつきについて理解を深める。
- ③自らが大切に育てた花を、市役所や近隣の施設に配ることで、地域・郷土を愛する心を育むとともに、配布先で職業に関する話を聞く体験を通じてキャリア教育へとつなげる。

【工夫した点】

- ・SDG s の取組を調べるだけでなく、実際に地域の方々に取組を聞くことで幅広い知識を獲得することができた。
- ・地域の方々と一緒に活動を行ったり、地域に訪問したりすることを通して、地域の方々と交流を深めるとともに、地域・郷土を愛する態度を育むことができた。



【市役所他への花苗の配布】



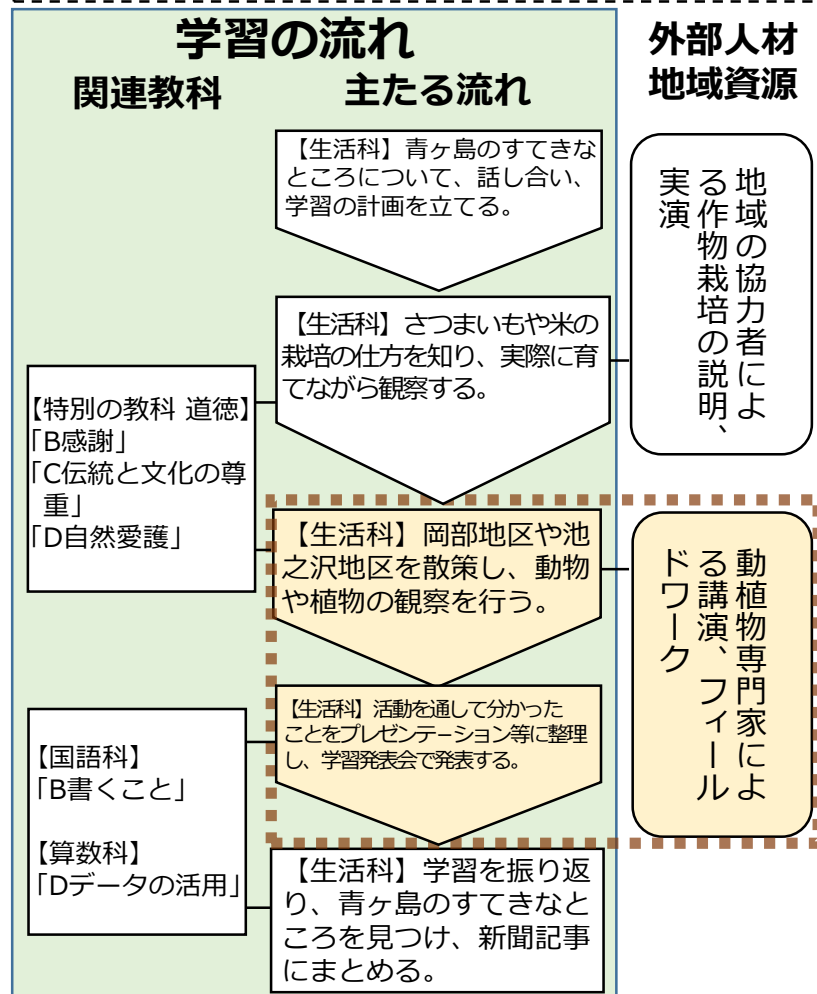
【地域の方々と農園の整備】

【成果】

・調べ学習や地域との連携により、地域・郷土を愛する力を育み、SDG s を自分事として捉え能動的に取り組むことができた。 29

育成を目指す資質・能力

自分達の住む青ヶ島の動植物について学び、愛着をもちながら郷土の自然保護の担い手となる力



外部人材・地域資源を活用した取組

【概要】

- ①生活科で青ヶ島に生息するカラスバトや地域の植物の花の作りについて、動植物の専門家とともに学ぶ。
- ②学習したことから、学習発表会で発表する内容を精査し、パワーポイントを使いプレゼンテーションを作成して、保護者や地域の方の前で発表した。また、模造紙に学習した内容をまとめ、会場に掲示する。



【動物の専門家によるフィールドワーク】

【工夫した点】

- ・児童が知っていることと関連付けながら動植物の専門家とともに学ぶことで、郷土や地域の動植物についての理解をより深めるとともに、よさやすばらしさに気付けるようにした。
- ・単元での学習を学校行事と関連付けて進めていくことで、児童の思考力、判断力、表現力等をより高めるようにした。



【学習発表会での発表】

【成果】

・青ヶ島の動植物について、外部人材とともに学ぶことで、青ヶ島のよさやすばらしさに気付くことができた。

育成を目指す資質・能力

青ヶ島の伝統文化と自然について学び、自分の故郷(青ヶ島)を語れる力

学習の流れ

関連教科

主たる流れ

外部人材
地域資源

【総合】青ヶ島について、調べたことと、自分が体験したことを新聞にまとめる。

【総合】岡部地区や池之沢地区を散策し、動物や植物の観察を行う。

【特別活動】島の伝統芸能である島踊り、伝統行事のフंकサを体験する。

【総合】活動を通して分かったことを新聞にまとめる。

【総合】青ヶ島について学んだことを発表する。作成した新聞を掲示する。

【特別の教科 道徳】
「C郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」
「D自然愛護」

【国語科】
「B書くこと」

動物植物専門家による講演、フィールドワーク

地域の協力者による伝統芸能、行事の説明、実演

外部人材・地域資源を活用した取組

【概要】

- ①文化的行事で「青ヶ島めぐり」を実施し、青ヶ島の観光名所である大凸部と尾山展望公園を訪れ、青ヶ島の魅力に触れた。その後、総合的な学習の時間で青ヶ島について、調べたことと、自分が体験したことを新聞にまとめる。
- ②総合的な学習の時間で、青ヶ島に生息するカラスバトや地域の植物の花のつくりについて、動物植物の専門家による講演、フィールドワークを通して学ぶ。

【工夫した点】

- ・動物植物の専門家の講演の前に事前学習をしておくことで、生徒が意欲的に動物植物について学習に取り組めるようにした。
- ・年度当初に新聞を作成し、1年間の学習を通して、3学期に再度新聞を作成することで、変容を確認できるようにした。



【青ヶ島めぐり】



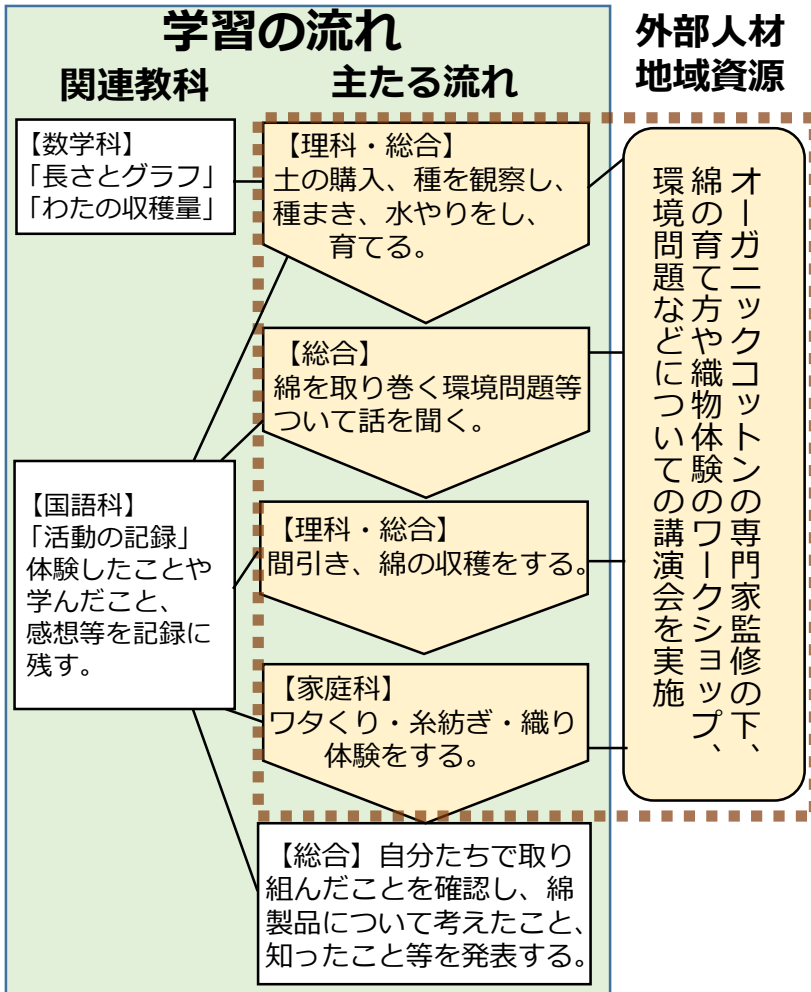
【動物植物の専門家によるフィールドワーク】

【成果】

・青ヶ島の動物植物や伝統文化について学習した内容を基に、自分の言葉で青ヶ島についてまとめ、表現を工夫して発表できた。

育成を目指す資質・能力

和綿を育て、主体的に行動する意欲や実行力・外部講師や友達との社会性やコミュニケーション力



外部人材・地域資源を活用した取組

【概要】

- ①オーガニックコットンの専門家から「私たちの衣類と持続可能な社会のつながり」について話を聞き、日常生活に必要不可欠な繊維である「綿」を取り巻く環境問題やオーガニックコットンについて等、消費者としてどのようなことを考え、行動していくことができるか考える。
- ②家庭科の衣生活で、衣類の素材について学び、綿を収穫し、綿から糸へ、糸から布へ加工体験を行った。

【工夫した点】

- ・土の購入、種まき、毎日の水やり、間引き等、実際に「和綿」を育てる活動を行い、全員が収穫や綿くり体験が行えるようにした。
- ・綿という題材について、友達との協力や外部講師との対話を行いながら、知識を増やしたり、主体的に行動することの重要性を学んだ。



【講演の様子】



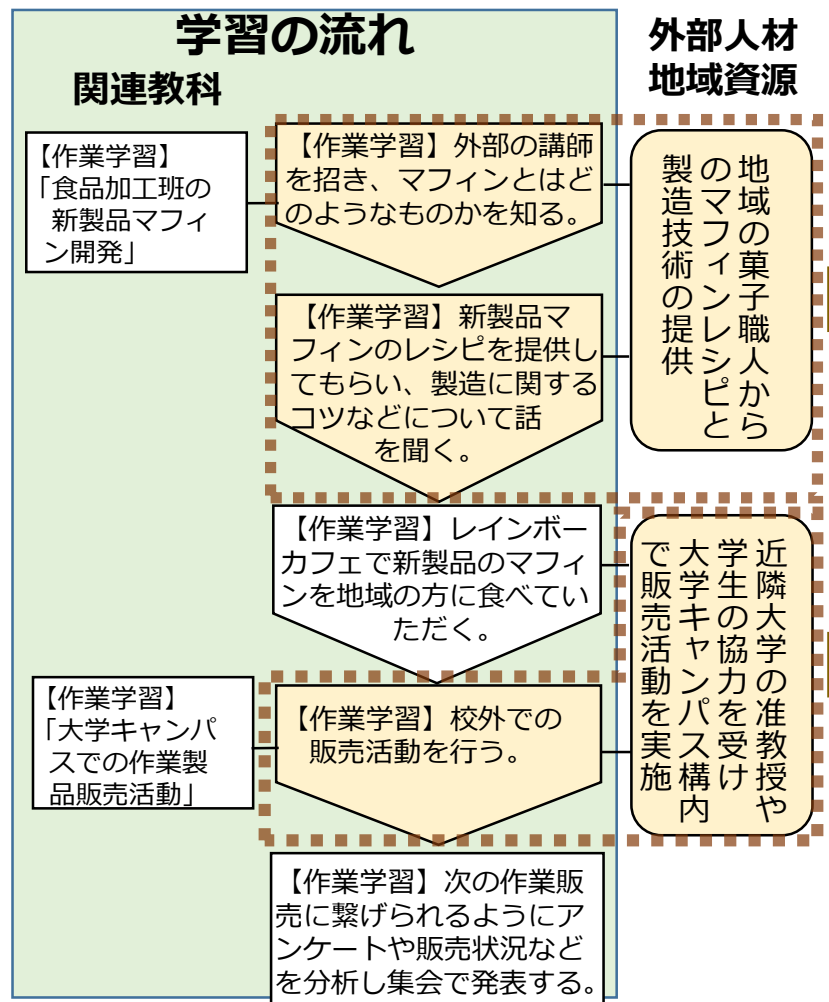
【糸紡ぎの様子】

【成果】

- ・「和綿」を実際に育て、成長を日々確認しながら、友達との協力や講師とのやり取りを通し、知識を増やし、体験を深めた。

育成を目指す資質・能力

地域で自信のもてる作業製品の販売活動をする中で、自己有用感や自己肯定感を培う



外部人材・地域資源を活用した取組

【概要】

- ①作業学習の食品加工班で、地域の菓子職人の方を招き、焼き菓子について調べたことに対し説明を聞くなどの学習をし、現在製造している製品や、マフィンについての知識を深めた。
- ②マフィンの製造のポイントやコツなどを教えていただき、何度も試作品をつくり、味のバリエーションを増やすなどして製品化し、自信のもてる製品製造に取り組んだ。
- ③本校喫茶室「レインボーカフェ」や地域での作業製品販売で、マフィンの販売計画を考える。

【工夫した点】

- ・新製品マフィン製造にあたり、菓子職人の方による段階的な製造ポイント等の講義や実習の中での対話により、生徒が次への課題を見出し、自ら工夫して生地混ぜ方などの改善に取り組めることを考えた。
- ・近隣大学で作業製品販売や障害者理解啓発ブースの設置を行うことで、本校の教育活動情報発信により、地域へ特別支援教育についての理解推進を行った。また、販売活動を通し生徒が地域の方と直接触れ合い感謝される経験を積み重ねて行く機会を設けた。



【新製品マフィン開発】



【大学キャンパスでの作業製品販売】

【成果】

・新製品の開発・製造・販売を通し、感謝される経験を積み重ねたことにより、地域で活躍できる自分に気付くことができた。